

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	大久保線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	狸坂	山崎		
系統キロ程 (km)	17.7	輸送量 (人/日)	19.7		
平均乗車密度 (人/便)	3.8	運行回数 (回/日)	5.2		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学院大学、浜松北高校、開誠館高校、浜松市立高校、浜松商業高校、静岡大学附属小・中学校、富塚小・中学校、神久呂中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	45.7		乗車人員 (人)	61,113	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停13	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：田町中央通り、尾張町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、富塚、富塚西、狸坂、神ヶ谷西平、大久保東		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	7.0				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専用チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやタイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

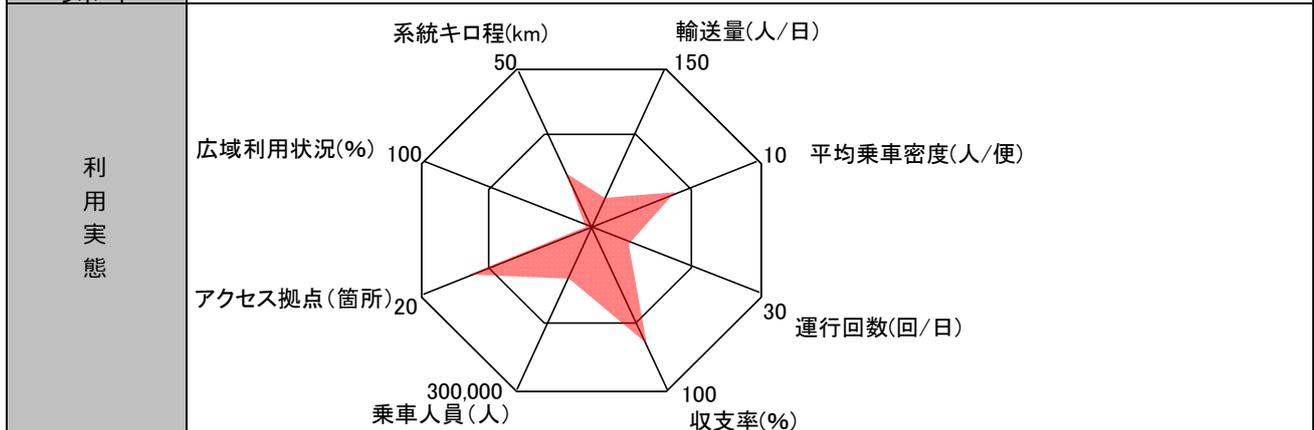
様式2

系統名	大久保線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	狸坂	田端住宅		
系統キロ程 (km)	12.9	輸送量 (人/日)	16.8		
平均乗車密度 (人/便)	4.1	運行回数 (回/日)	4.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学院大学、浜松北高校、開誠館高校、浜松市立高校、浜松商業高校、静岡大学附属小・中学校、富塚小・中学校、神久呂中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	57.3		乗車人員 (人)	58,389	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停10	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：田町中央通り、尾張町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、富塚、富塚西、狸坂、神ヶ谷西平、大久保東		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	1.3				

増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。 ・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。 ・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。
	【実績】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。 ・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。 ・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。 ・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。 ・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。 ・2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。

費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。
	【実績】 ・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。 ・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖） ・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。 ・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。

沿線市町のサポート	
-----------	--



令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	伊佐見線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	伊佐見橋	山崎		
系統キロ程 (km)	16.6	輸送量 (人/日)	36.1		
平均乗車密度 (人/便)	4.2	運行回数 (回/日)	8.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北高校、開誠館高校、浜松市立高校、海の星高校、広沢小学校、伊佐見小学校			
	病院	浜松病院、医療センター、湖東病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	52.9		乗車人員 (人)	123,645	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停12	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：田町中央通り、尾張町、市役所南、鹿谷町、医療センター、佐鳴台五丁目、富塚西、狸坂、神田原、伊佐見橋、古人見東、山崎		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	1.8				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	浜名線			事業者名	遠州鉄道株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点			
	浜松駅	舞阪協働センター	湖西市役所			
系統キロ程 (km)	22.5		輸送量 (人/日)	15.3		
平均乗車密度 (人/便)	5.1		運行回数 (回/日)	3.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	可美中学校、篠原小学校、新居小学校				
	病院	湖西病院				
	商業施設					
	その他	スズキ、湖西市役所、舞阪協働センター、JR浜松、高塚駅、舞阪駅、弁天島駅、新居町駅、鷺津駅				
収支率 (%) (収益/費用)	55.1		乗車人員 (人)	67,550		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点4 バス停5	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、新居町駅、鷺津駅、弁天島温泉駅 バス停：成子坂、新居栄町、清源坂、本興寺前、湖西市民会館			
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	9.7					
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>					
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>				
沿線市町のサポート						
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>					

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	笠井高台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	笠井上町	山東		
系統キロ程 (km)	24.3	輸送量 (人/日)	19.8		
平均乗車密度 (人/便)	5.5	運行回数 (回/日)	3.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	西遠学園、天竜高校、清滝中学校、与進小学校			
	病院	労災病院			
	商業施設	浜松プラザ			
	その他	浜松市天竜区役所、JR浜松駅、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	62.3		乗車人員 (人)	82,285	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点 2 バス停 14	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、遠鉄西鹿島駅 バス停：広小路、労災病院、宮竹、原島、市野上、恒武、笠井本町、笠井上町、東河原上、南中瀬、鹿島橋、秋野不矩美術館入口、二俣横町、山東		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	5.4				
増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。 ・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。 ・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。 【実績】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。 ・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。 ・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。 ・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。 ・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。 ・2日間周遊きっぷ「HAMANAOKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。				
	費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。 ・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖） ・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。 ・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50      輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100      平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20      運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000      収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	浜北医大三方原聖隷線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三方原 聖隷	染地台 なゆた浜北	浜北 区役所		
系統キロ程 (km)	18.2		輸送量 (人/日)	36.5	
平均乗車密度 (人/便)	4.3		運行回数 (回/日)	8.5	
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	聖隷クリストファー高校・大学、浜松工業高校、日体高校、医科大学			
	病院	聖隷三方原病院			
	商業施設				
	その他	浜松市浜北区役所、遠鉄浜北駅、小松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	48.4		乗車人員 (人)	101,457	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停13	名称	拠点：遠鉄小松駅、なゆた浜北 バス停：聖隷三方原病院、根洗、都田口西、都田口、曳馬野、浜工高前、三方原営業所、半田、環状線入口、染地台3丁目、内野台一丁目、内野台三丁目、浜北区役所		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	36.8				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	渋川線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	追分	渋川儀光		
系統キロ程（km）	36.3	輸送量（人/日）	21.0		
平均乗車密度（人/便）	6.0	運行回数（回/日）	3.5		
公共・拠点施設	学校	静岡大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、浜松湖北高校、北星中学校			
	病院	聖隷浜松病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、天竜浜名湖鉄道金指駅			
収支率（%） （収益/費用）	53.9		乗車人員（人）	79,466	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停18	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、天竜浜名湖鉄道金指駅 バス停：田町中央通り、ゆりの木通り、元城町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、六間坂上、住吉町、和合町、葵町、追分、北星中学入口、新豊院、根洗、祝田、浜松湖北高校前、井伊谷、渋川		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	26.0				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやタイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	渋川線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	追分	伊平		
系統キロ程 (km)	21.8	輸送量 (人/日)	45.3		
平均乗車密度 (人/便)	5.4	運行回数 (回/日)	8.4		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、浜松湖北高校、北星中学校			
	病院	聖隷浜松病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、天竜浜名湖鉄道金指駅			
収支率 (%) (収益/費用)	63.1		乗車人員 (人)	137,523	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停17	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、天竜浜名湖鉄道金指駅 バス停：田町中央通り、ゆりの木通り、元城町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、六間坂上、住吉町、和合町、葵町、追分、北星中学入口、新豊院、根洗、祝田、引佐高校前、井伊谷		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	26.9				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANA KO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態					

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	城之崎線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田駅	東新町	浅羽中学		
系統キロ程 (km)	11.0	輸送量 (人/日)	22.4		
平均乗車密度 (人/便)	3.5	運行回数 (回/日)	6.4		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浅羽中学校、浅羽北小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	袋井市浅羽支所、NTT磐田製作所、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	51.1		乗車人員 (人)	62,152	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：JR磐田駅 バス停：城之崎、西貝塚北、東貝塚、東新町、新出		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	12.7				
増収策	●事業者としての取組				
	【計画】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。 ・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。 ・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用）。 【実績】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。 ・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。 ・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。 ・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。 ・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。 ・2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。				
費用削減策	●事業者としての取組				
	【計画】 ・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。 ・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖） ・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。 ・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。				
沿線市町のサポート					
利用実態	系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150 広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10 アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30 乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田市立病院福田線（10.1）			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田市立病院	磐田駅	豊浜郵便局		
系統キロ程（km）	19.6	輸送量（人/日）	65.5		
平均乗車密度（人/便）	5.2	運行回数（回/日）	12.6		
公共・拠点施設	学校	磐田南高校、磐田北小学校			
	病院	新都市病院、磐田市立病院			
	商業施設				
	その他	磐田市役所、磐田市福田支所、JR磐田駅			
収支率（%） （収益/費用）	67.1		乗車人員（人）	103,861	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停11	名称	拠点：JR磐田駅 バス停：磐田市立病院、大久保東原、二階家、井戸ヶ谷、磐田北小、西坂町、加茂川、新道、前嶋、福田交番前、福田営業所		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	32.5				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 5.2</p> <p>運行回数(回/日) 12.6</p> <p>収支率(%) 67.1</p> <p>乗車人員(人) 103,861</p> <p>広域利用状況(%) 32.5</p> <p>アクセス拠点(箇所) 11</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田市立病院福田線（10.2）			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田市立病院	磐田駅	豊浜郵便局		
系統キロ程（km）	19.6	輸送量（人/日）	62.5		
平均乗車密度（人/便）	5.0	運行回数（回/日）	12.5		
公共・拠点施設	学校	磐田南高校、磐田北小学校			
	病院	新都市病院、磐田市立病院			
	商業施設				
	その他	磐田市役所、磐田市福田支所、JR磐田駅			
収支率（%） （収益/費用）	64.6		乗車人員（人）	105,042	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停11	名称	拠点：JR磐田駅 バス停：磐田市立病院、大久保東原、二階家、井戸ヶ谷、磐田北小、西坂町、加茂川、新道、前嶋、福田交番前、福田営業所		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	28.4				
増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。 ・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。 ・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。 【実績】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。 ・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。 ・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。 ・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。 ・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。 ・2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。				
	費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。 ・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖） ・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。 ・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	中ノ町磐田線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	中ノ町	磐田営業所		
系統キロ程 (km)	17.4	輸送量 (人/日)	122.7		
平均乗車密度 (人/便)	6.2	運行回数 (回/日)	19.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	西遠学園、磐田西高校、磐田南高校、中ノ町小学校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市役所、JR浜松駅、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	72.7		乗車人員 (人)	412,038	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停8	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、磐田駅 バス停：広小路、子安、磐田石原、加茂川、国道加茂川、見付、富士見町、磐田営業所		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	12.8				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	北遠本線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	西鹿島駅	横山車庫	唐沢		
系統キロ程 (km)	19.7	輸送量 (人/日)	16.0		
平均乗車密度 (人/便)	3.2	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜高校、清滝中学校、光が丘中学校、横山小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	39.6		乗車人員 (人)	2,568	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停4	名称	拠点：遠鉄西鹿島駅 バス停：鹿島橋、秋野不矩美術館入口、二俣横町、山東		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	20.7				
増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。 ・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。 ・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。 【実績】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。 ・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。 ・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。 ・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。 ・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。 ・2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。				
	費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。 ・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖） ・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。 ・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150                  広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10                  アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30                  乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	北遠本線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	西鹿島駅	横山車庫	水窪町		
系統キロ程 (km)	51.9	輸送量 (人/日)	15.5		
平均乗車密度 (人/便)	3.1	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜高校、清滝中学校、光が丘中学校、横山小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、龍山協働センター、水窪協働センター、遠鉄西鹿島駅、JR飯田線相月駅、水窪駅			
収支率 (%) (収益/費用)	24.7		乗車人員 (人)	52,803	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停4	名称	拠点：遠鉄西鹿島駅、相月駅 バス停：鹿島橋、秋野不矩美術館入口、二俣横町、山東		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	38.7				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	秋葉線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	春野車庫	-	西鹿島駅		
系統キロ程 (km)	23.4	輸送量 (人/日)	20.5		
平均乗車密度 (人/便)	4.1	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜高校、天竜高校春野校舎、清滝中学校、光が丘中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	46.8		乗車人員 (人)	62,862	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停6	名称	拠点：遠鉄西鹿島駅 バス停：横川、下すがり入口、山東、二俣横町、秋野不知美術館入口、鹿島橋		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	33.0				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	秋葉線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	春野車庫	西鹿島駅	厚生会		
系統キロ程 (km)	26.7	輸送量 (人/日)	20.0		
平均乗車密度 (人/便)	4.0	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜高校、天竜高校春野校舎、清滝中学校、光が丘中学校			
	病院	天竜病院、厚生会			
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	44.4		乗車人員 (人)	81,257	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停7	名称	拠点：遠鉄西鹿島駅 バス停：横川、下すがり入口、山東、二俣横町、秋野不矩美術館入口、鹿島橋、天竜病院坂下		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	16.3				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田天竜線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	山東	新開	磐田駅		
系統キロ程 (km)	21.7	輸送量 (人/日)	42.6		
平均乗車密度 (人/便)	5.4	運行回数 (回/日)	7.9		
公共・拠点施設	学校	天竜高校、磐田南高校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	県中遠総合庁舎、磐田市役所、浜松市天竜区役所、JR磐田駅、遠鉄西鹿島駅、天竜浜名湖鉄道豊岡、二俣駅			
収支率 (%) (収益/費用)	62.9		乗車人員 (人)	107,801	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR磐田駅、天竜浜名湖鉄道二俣駅 バス停：山東、二俣横町、秋野不矩美術館入口、寺谷上、火ノ見、匂坂中村、三ツ入下、宝新道、西坂町、加茂川		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	66.5				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>広域利用状況(%) 100</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田天竜線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	山東	ららぽーと磐田	磐田駅		
系統キロ程（km）	24.7	輸送量（人/日）	72.1		
平均乗車密度（人/便）	4.1	運行回数（回/日）	17.6		
公共・拠点施設	学校	天竜高校、磐田南高校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設	ららぽーと磐田			
	その他	県中遠総合庁舎、磐田市役所、浜松市天竜区役所、JR磐田駅、遠鉄西鹿島駅、天竜浜名湖鉄道豊岡、二俣駅			
収支率（%） （収益/費用）	48.1		乗車人員（人）	247,708	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR磐田駅、天竜浜名湖鉄道二俣駅 バス停：山東、二俣横町、秋野不矩美術館入口、寺谷上、火ノ見、匂坂中村、三ツ入下、宝新道、西坂町、加茂川		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	31.8				
増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。 ・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。 ・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。 【実績】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。 ・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。 ・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。 ・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。 ・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。 ・2日間周遊きっぷ「HAMANAOKA 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。				
	費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。 ・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖） ・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。 ・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150                  広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10                  アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30                  乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚・駒場	横須賀車庫		
系統キロ程 (km)	26.3	輸送量 (人/日)	19.3		
平均乗車密度 (人/便)	5.1	運行回数 (回/日)	3.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎、横須賀高校、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市福田支所、掛川市大須賀支所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	54.8	乗車人員 (人)	66,720		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停10	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：東部協働センター、名塚西、芳川西、芳川、金洗西、鮫島西、新道、前嶋、福田営業所、福田交番前		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	50.0				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAOKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>広域利用状況(%) 100</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚	豊浜郵便局		
系統キロ程 (km)	17.3	輸送量 (人/日)	28.8		
平均乗車密度 (人/便)	3.8	運行回数 (回/日)	7.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市福田支所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	49.2		乗車人員 (人)	88,932	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停9	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：東部協働センター、名塚西、芳川西、芳川、金洗西、鮫島西、新道、前嶋、福田営業所		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	34.9				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50      輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100      平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20      運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000      収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚・とつか	豊田町駅		
系統キロ程 (km)	14.6	輸送量 (人/日)	31.0		
平均乗車密度 (人/便)	4.7	運行回数 (回/日)	6.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	JR浜松駅、豊田町駅			
収支率 (%) (収益/費用)	61.9		乗車人員 (人)	88,489	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停6	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、豊田町駅 バス停：東部協働センター、名塚西、芳川西、芳川、金洗西、金洗東		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	43.2				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚・千手堂	磐田駅		
系統キロ程 (km)	14.8	輸送量 (人/日)	33.5		
平均乗車密度 (人/便)	4.6	運行回数 (回/日)	7.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	JR浜松駅、磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	60.3		乗車人員 (人)	93,416	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、磐田駅 バス停：東部協働センター、名塚西、芳川西、芳川、金洗西、小島中村、神明、万正寺、天竜、磐田石原		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	28.4				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	内野台線（21.1）			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	-	内野台車庫		
系統キロ程（km）	12.6	輸送量（人/日）	59.3		
平均乗車密度（人/便）	5.6	運行回数（回/日）	10.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、遠鉄上島駅			
収支率（%） （収益/費用）	74.0		乗車人員（人）	35,525	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停8	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、遠鉄上島駅 バス停：田町中央通り、尾張町、上島西、半田、環状線入口、内野台一丁目、内野台三丁目、内野台車庫		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	44.4				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者としての取組</li> <li>【計画】</li> <li>・運賃箱から取得されるバス全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用）。</li> <li>【実績】</li> <li>・運賃箱から取得されるバス全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>・2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者としての取組</li> <li>【計画】</li> <li>・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> <li>【実績】</li> <li>・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	内野台線（21.2）			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	-	内野台車庫		
系統キロ程（km）	12.7	輸送量（人/日）	61.4		
平均乗車密度（人/便）	5.8	運行回数（回/日）	10.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、遠鉄上島駅			
収支率（%） （収益/費用）	76.4		乗車人員（人）	79,832	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停8	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、遠鉄上島駅 バス停：田町中央通り、尾張町、上島西、半田、環状線入口、内野台一丁目、内野台三丁目、内野台車庫		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	45.9				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者としての取組</li> <li>【計画】</li> <li>・運賃箱から取得されるバス全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用）。</li> <li>【実績】</li> <li>・運賃箱から取得されるバス全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>・2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者としての取組</li> <li>【計画】</li> <li>・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> <li>【実績】</li> <li>・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	内野台線（22.1）			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	内野台車庫	サンストリート浜北		
系統キロ程（km）	13.8	輸送量（人/日）	41.2		
平均乗車密度（人/便）	4.8	運行回数（回/日）	8.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北小学校			
	病院				
	商業施設	サンストリート浜北			
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、遠鉄上島駅			
収支率（%） （収益/費用）	63.0		乗車人員（人）	28,905	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、遠鉄上島駅 バス停：田町中央通り、尾張町、上島西、半田、環状線入口、内野台一丁目、内野台三丁目、内野台車庫、妙蓮寺前、グリーンアリーナ入口		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	40.6				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	内野台線（22.2）			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	内野台車庫	サンストリート浜北		
系統キロ程（km）	13.9	輸送量（人/日）	40.4		
平均乗車密度（人/便）	4.7	運行回数（回/日）	8.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北小学校			
	病院				
	商業施設	サンストリート浜北			
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、遠鉄上島駅			
収支率（%） （収益/費用）	61.7		乗車人員（人）	61,196	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、遠鉄上島駅 バス停：田町中央通り、尾張町、上島西、半田、環状線入口、内野台一丁目、内野台三丁目、内野台車庫、妙蓮寺前、グリーンアリーナ入口		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	35.0				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田市立病院福田線（23.1）			事業者名	遠州鉄道株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点			
	磐田駅南口	福田車庫	豊浜郵便局			
系統キロ程（km）	9.4		輸送量（人/日）	44.9		
平均乗車密度（人/便）	3.1		運行回数（回/日）	14.5		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡産業大学				
	病院	新都市病院				
	商業施設					
	その他	磐田市福田支所、JR磐田駅				
収支率（%） （収益/費用）	49.2		乗車人員（人）	44,575		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：JR磐田駅南口 バス停：静岡産業大学入口、新道、前嶋、福田交番前、福田営業所			
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	72.8					
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAOKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>					
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>				
沿線市町のサポート						
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>					

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田市立病院福田線（23.2）			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田駅南口	福田車庫	豊浜郵便局		
系統キロ程（km）	9.4	輸送量（人/日）	46.0		
平均乗車密度（人/便）	3.2	運行回数（回/日）	14.4		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡産業大学			
	病院	新都市病院			
	商業施設				
	その他	磐田市福田支所、JR磐田駅			
収支率（%） （収益/費用）	50.9		乗車人員（人）	46,330	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：JR磐田駅南口 バス停：静岡産業大学入口、新道、前嶋、福田交番前、福田営業所		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	67.1				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAOKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	引佐線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	浜松湖北高校	気賀駅前		
系統キロ程 (km)	18.6	輸送量 (人/日)	38.8		
平均乗車密度 (人/便)	6.7	運行回数 (回/日)	5.8		
公共・拠点施設	学校	静岡大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、浜松湖北高校			
	病院	聖隷浜松病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、天浜線金指駅、天浜線気賀駅			
収支率 (%) (収益/費用)	80.2		乗車人員 (人)	99,730	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点3 バス停19	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、天浜線金指駅、天浜線気賀駅 バス停：田町中央通り、ゆりの木通り、元城町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、六間板上、住吉町、和合町、葵町、追分、北星中学入口、新豊院、根洗、祝田、浜松湖北高校、清水橋、気賀四ツ角、片町		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	29.9				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
	費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやタイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50      輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100      平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20      運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000      収支率(%) 100</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

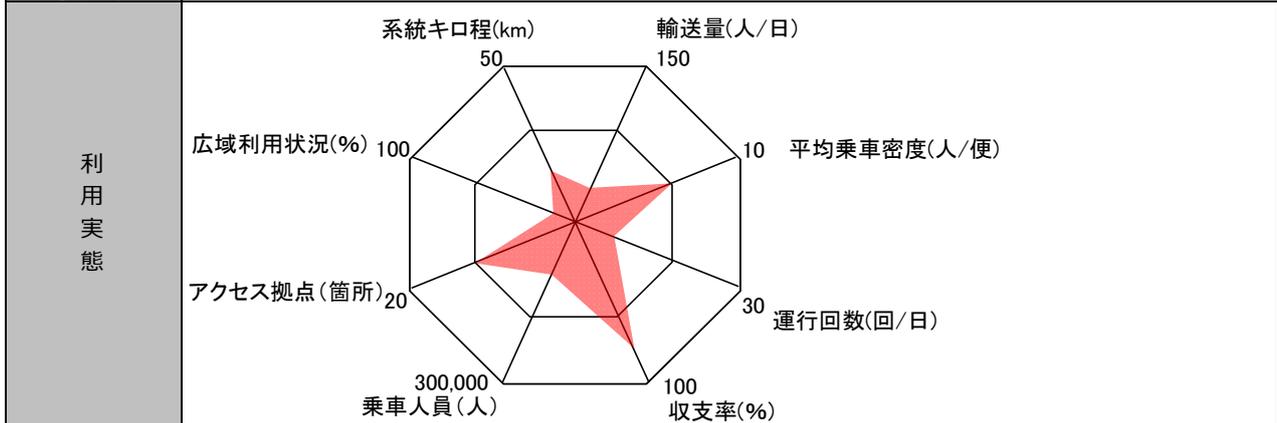
様式2

系統名	萩丘都田線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	-	染地台三丁目		
系統キロ程 (km)	12.3	輸送量 (人/日)	28.0		
平均乗車密度 (人/便)	5.6	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設状況	学校	浜松学芸高校、浜松学院高校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	78.7		乗車人員 (人)	66,538	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点1 バス停9	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：かじ町、元城町、市役所前、浜松城公園入口、常楽寺、上島西、萩丘、長池、三方原営業所		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	10.5				

増収策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者としての取組</li> <li>【計画】</li> <li>・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トッパタッチ」の活用）。</li> <li>【実績】</li> <li>・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>・2日間周遊きっぷ「HAMANAOKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>
-----	--

費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者としての取組</li> <li>【計画】</li> <li>・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> <li>【実績】</li> <li>・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>
-------	--

沿線市町のサポート	
-----------	--



令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	大塚ひとみヶ丘線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	湖東高校・ひとみヶ丘東	山崎		
系統キロ程（km）	15.2	輸送量（人/日）	67.8		
平均乗車密度（人/便）	7.3	運行回数（回/日）	9.3		
公共・拠点施設状況	学校	浜松学院大学・浜松北高校・開誠館高校・浜松市立高校・浜松商業高校・浜松湖東高校 附属中学校・富塚中学校・神久呂中学校・附属小学校・富塚小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	神久呂協働センター、浜松市役所、JR浜松駅			
収支率（%） （収益/費用）	96.3		乗車人員（人）	175,399	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停11	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：田町中央通り、尾張町、市役所前、鹿谷町、浜松北高、富塚、富塚西、狸坂、神田原、古人見東、山崎		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	1.5				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。</li> <li>グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。</li> <li>運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用）。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。</li> <li>ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。</li> <li>小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。</li> <li>浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。</li> <li>高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。</li> <li>定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。</li> <li>2日間周遊きっぷ「HAMANAOKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。</li> </ul>				
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。</li> <li>営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。</li> <li>営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖）</li> <li>60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。</li> <li>バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。</li> </ul>				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 7.3</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 9.3</p> <p>乗車人員(人) 175,399 収支率(%) 96.3</p>				

令和元年度運行分系統別利用実態（公表シート）

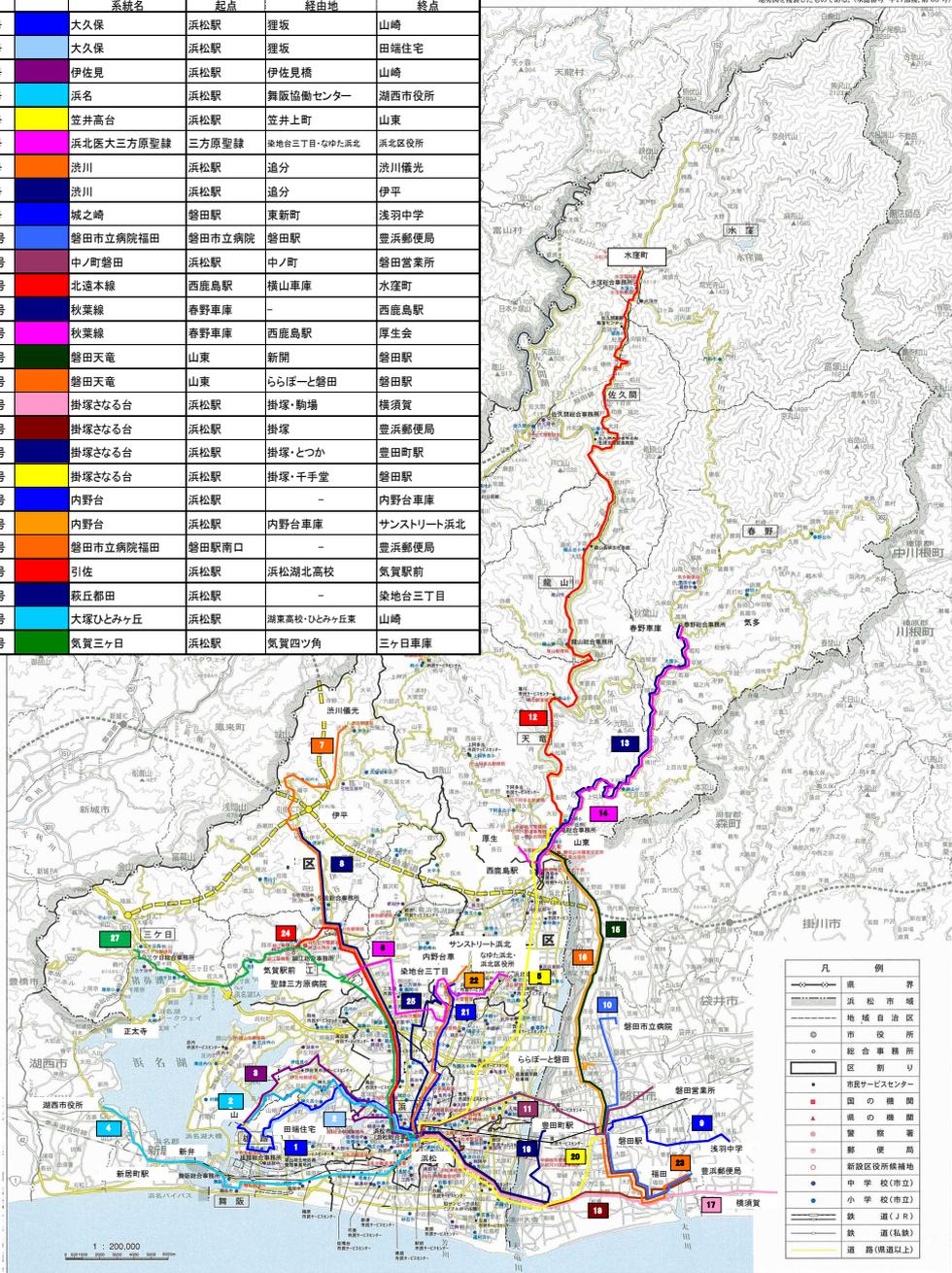
様式2

系統名	気賀三ヶ日線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	気賀四ッ角	三ヶ日車庫		
系統キロ程（km）	29.3	輸送量（人/日）	123.0		
平均乗車密度（人/便）	6.8	運行回数（回/日）	18.1		
公共・拠点施設状況	学校	静岡大学、聖隷クリストファー大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、浜松湖北高校			
	病院	聖隷浜松病院、聖隷三方原病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、北区役所、三ヶ日協働センター、JR浜松駅、天浜金指駅、天浜気賀駅			
収支率（%） （収益/費用）	69.7		乗車人員（人）	418,477	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点3 バス停19	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、金指、気賀駅前 バス停：田町中央通り、ゆりの木通り、元城町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、六間坂上、住吉町、和合町、葵町、追分、北星 中学入口、新豊院、根洗、祝田、引佐高校前、清水橋、気賀四ッ角、片町		
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）	29.4				
増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを活用して、旅客動向に応じたダイヤを作成。 ・グループ共通ポイントカードと連携して、ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施するとともに、バスの乗り方を説明したDVDを作成して、運行エリア内の小学校へ配布。 ・運行エリア内の施設と連携して、施設へバスで来られた方に対して、インセンティブを付与（ICカード読み取り機「トップタッチ」の活用）。 【実績】 ・運賃箱から取得されるバスの全運行データを収集して、ビッグデータを半自動的に加工するソフトを活用して、現況を把握。それをもとに旅客動向に応じたダイヤを作成（平成30年10月及び平成31年4月にダイヤ改正を実施）。 ・ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ・小学生向けのバス教室を実施、運行エリア内の小学校へDVDを配布。 ・浜松市美術館等と連携して、イベント時に施設へバスで来られた方に対して、入館料割引券等を進呈。 ・高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を強化。 ・定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを開始。取扱いクレジットカードを全社へ拡大。 ・2日間周遊きっぷ「HAMANAOKO 2DAYS PASS」の発売対象を外国人限定からすべてのお客様に変更し販促を強化。				
	費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフのデータを使って、個人毎の運転特性を把握して、適切な指導を行うことで燃費改善を図るとともに燃料費の抑制につなげる。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や事故の撲滅に努めた。 ・営業窓口の改編を実施して、間接部門の人件費抑制に努めた（平成31年1月に雄踏営業所窓口を閉鎖） ・60歳以上の乗務員の再雇用を強化した。また、人事部に設置された「運転者採用専門チーム」にて、採用活動の強化を図った。 ・バスに搭載している音声データやダイヤデータの注入方法、メモリーカード方式から金庫方式に変更したことにより、日常的なデータ入れ替えが可能となった。結果、データの注入に要する時間を削減した。			
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

# 平成28年度 遠州鉄道株式会社 補助対象系統路線図

申請番号	凡例	運行系統名	運行系統		
			起点	中心 経由地	終点
第1号	大久保	浜松駅	榑坂	山崎	
第2号	大久保	浜松駅	榑坂	田端住宅	
第3号	伊佐見	浜松駅	伊佐見橋	山崎	
第4号	浜名	浜松駅	舞阪協働センター	湖西市役所	
第5号	笠井高台	浜松駅	笠井上町	山東	
第6号	浜北医大三方原聖隷	三方原聖隷	染地台三丁目・なゆた浜北	浜北区役所	
第7号	洪川	浜松駅	遠分	洪川権光	
第8号	洪川	浜松駅	遠分	伊平	
第9号	城之崎	磐田駅	東新町	浅羽中学	
第10号	磐田市立病院福田	磐田市立病院	磐田駅	豊浜郵便局	
第11号	中ノ町磐田	浜松駅	中ノ町	磐田営業所	
第12号	北遠本線	西鹿島駅	横山車庫	水窪町	
第13号	秋葉線	春野車庫	-	西鹿島駅	
第14号	秋葉線	春野車庫	西鹿島駅	厚生会	
第15号	磐田天竜	山東	新開	磐田駅	
第16号	磐田天竜	山東	ららぽーと磐田	磐田駅	
第17号	掛塚さなる台	浜松駅	掛塚・駒場	横須賀	
第18号	掛塚さなる台	浜松駅	掛塚	豊浜郵便局	
第19号	掛塚さなる台	浜松駅	掛塚・とつか	磐田町駅	
第20号	掛塚さなる台	浜松駅	掛塚・千手堂	磐田駅	
第21号	内野台	浜松駅	-	内野台車庫	
第22号	内野台	浜松駅	内野台車庫	サンストリート浜北	
第23号	磐田市立病院福田	磐田駅南口	-	豊浜郵便局	
第24号	引佐	浜松駅	浜松湖北高枝	気賀駅前	
第25号	萩丘都田	浜松駅	-	染地台三丁目	
第26号	大塚ひとみヶ丘	浜松駅	湖東高枝・ひとみヶ丘東	山崎	
第27号	気賀三ヶ日	浜松駅	気賀四ツ角	三ヶ日車庫	

この地図は、国土地理院院長の承認を得て、国院発付の2017年11月1日現在版を複製したものである。(承認番号 平17第17号 第66号)



製図者 株式会社 国土院 1-3-3 034-0310411 (株)中尾システムテック